

岩手県「道の駅」検定 テキスト

県-番号	道の駅名	愛称	市町村	面する道路	内容
岩手-1	石鳥谷	南部杜氏の里	花巻市	国道4号	<p>岩手県における「道の駅」登録第1号で1993年の第1回登録駅の一つ。 愛称の「南部杜氏の里」といわれるように、丹波杜氏(兵庫県)、越後杜氏(新潟県)とともに日本三大杜氏で有名。日本酒の試飲が有料でき、売店では日本酒約100種類を販売している。酒造りの歴史が学べる南部杜氏伝承館、歴史民俗資料館に農業伝承館もある。</p> <p>国道4号に隣接しており、2023年7月、開業30周年に合わせてリニューアルオープンした。酒蔵をアレンジした造りで白壁が美しく特徴的だ。駐車場は拡大して大型車も止められるスペースもあり、広々としている。トイレ休憩施設を新築した他、キッズスペースも設置された。地元の伝統的な料理、ひつまみ汁の定食などが並ぶレストラン、立ち食いそば屋、コンビニも近隣にあるため、小休憩から、ゆっくりと食事を楽しむこともできる「道の駅」だ。</p> <p>「道の駅」の裏手には田んぼアートを眺めることができ、季節は6月下旬から8月中旬が一番の見ごろだ。田んぼアートは、地区の活性化と交流を目指し、2010年より、約30aの水田キャンパスに赤・紫・黄・緑・白の5種類のイネを使用し、巨大なアートを作る。パークゴルフ場もあり、木々に囲まれた緑一杯の敷地の中で子供から大人まで楽しむことが出来る、見て遊んで、食べてと3拍子揃った「道の駅」だ。</p>
岩手-2	高田松原		陸前高田市	国道45号	<p>1993年の第1回登録駅の一つ。 道の駅・高田松原は東日本大震災で被災したが、2019年9月22日、新たに重点「道の駅」として選定され、岩手県立「高田松原津波復興祈念公園」内にリニューアルオープンした。</p> <p>三陸観光のゲートウェイとして、陸前高田市産はもちろん、岩手県内あるいは三陸地方全般の農水産物、物産品などを幅広く取り扱っている。海産物販売エリアでは、日本で一番高値で取引されている「広田の牡蠣」やホタテ、ワカメなど、三陸地方の豊かな海の幸をその場で購入する事ができる。三陸ではお馴染みの海鮮丼が「まつばら食堂」で楽しめる。「陸前高田地産地消推奨店」として認定されている「たかたのごはん」では、地元食材にこだわったメニューを提供しており、陸前高田市内で養殖されたカキやホタテを、丼やフライ、天ぷらなどで堪能できる。震災の支援でつながった鳥取県の「すなば珈琲」や、遠野産のミルクと地元フルーツなどで作ったジェラートが楽しめるカフェも人気だ。</p> <p>公園の広さは約130haと東京ドームおよそ30個分という広さ。公園内の震災遺構「タビック45(旧道の駅)」や「旧気仙中学校校舎」を活用した散策ガイドのほか、陸前高田市内の有料ガイドツアーなども受付している。奇跡の一本松や国営追悼・祈念施設、東日本津波伝承館も併設されており、修学旅行生など、国内外からも多くの観光客が訪れる。</p>
岩手-3	区界高原	ビーフビレッジ 区界	宮古市	国道106号	<p>1993年の第1回登録駅の一つ。 2021年3月にリニューアルした、盛岡方面から宮古市への玄関口にある、岩手県の自然環境保全地域にも指定された高原にある「道の駅」。標高700mに位置し、周辺には5つのトレッキングコースもあり、兜明神岳への登山も楽しむことが出来る。毎年2月には雪のゆうえんちを開催していて、そり遊びやスノーラフティングなども楽しめる。1年を通して自然を満喫することができる「道の駅」だ。</p> <p>フードコートの人気メニューは「ダールラーメン」と「宮古ラーメン」が評判。うま味と辛味が絶妙のあんかけがかかったダールラーメンと昔ながらの煮干しだしを使った宮古ラーメンに加え、区界大根かつカレー麺や、地元産そばを自社製粉製麺した数量限定の区界そばなど、オリジナルメニューが充実している。</p> <p>紫蘇エキスとハチミツのドリンク「かわいベリーラ」は、宮古市川井特産の片面紫蘇(葉の表が緑で裏が赤)を使用。色、香りがよい原料からエキスを抽出しハチミツをブレンドした飲料のオリジナル商品だ。「川井赤紫蘇」と「県産りんご」を使用した淡いピンク色をした爽やかな味わいのしそりんごソフトクリームもおすすすめ。</p>
岩手-4	おおの	おおのキャンパス	洋野町	国道395号	<p>1994年第5回登録の「道の駅」。 道の駅・おおのは27haという広大な面積を持つ。その敷地の中には「モノづくりが暮らしを豊かにする」というコンセプトの元、木工、陶芸、さき織りの体験施設、宿泊施設、入浴施設、牧場に動物ふれあい館、天体観測にパークゴルフなど、心と体を豊かにできる14の施設が並ぶ。</p> <p>木工品は「大野木工」と呼ばれ有名。天然木ならではの木目が美しく、県産のマツやセシ、クルミなどを素材としており、耐久性や耐熱性にも優れている。お椀や中鉢、丸皿など種類も豊富だ。</p> <p>また、食の館人気のメニューは大野木工の器で出てくる赤鶏ラーメン。洋野町産の純和鶏「赤鶏」を使ったラーメンはここでしか味わえない一品。また、レストラン「グリーンヒルおおの」では本格的なメニューも味わえる。ステーキセットや赤鶏を使ったメニューに、八幡平ポークのしょうが焼き、おおのダムカレーなど、幅広いメニューが楽しめる。</p> <p>ここならではの施設としては、有森記念クロスカントリーコースもあげられる。冬はクロスカントリー、夏はウォーキングやマラソンのコースとしても楽しめる散策路。コース開きでは、オリンピックメダリストの有森選手が走り始めをして、「みるくロード」という名前がつけられ、2kmのコースから、最長5kmのコースを選べる。パークゴルフ場もあるので大人から子供まで楽しめる。ひと汗かいたら、漢方薬湯とフィンランド式サウナを備えた入浴施設「健康の湯」が利用できる。一日では時間が足りないほどの「道の駅」だ。</p>

県-番号	道の駅名	愛称	市町村	面する道路	内容
岩手-5	種山ヶ原	星と賢治の種山ヶ原	住田町	国道397号	<p>1994年第5回登録の三陸沿岸と奥州を結ぶ国道397号沿いにある「道の駅」。</p> <p>物見山とも呼ばれる種山ヶ原高原の入口にある。なだらかな稜線が美しい高原で、宮沢賢治ゆかりの「イーハトーブの風景地」の一つとして国の名勝に指定されている。「風の又三郎」の舞台として登場することでも有名だ。国道を挟んで北側には広大な種山ヶ原森林公園があり、「タネリの径」「プリューベルの径」など宮沢賢治作品をモチーフにした遊歩道が整備されており、四季を通じて散歩を楽しむことができる。</p> <p>物産館「ぼらん」では、春には山菜や秋にはキノコ類といった新鮮な農産物や、木を素材にした民芸品が並んでいる。地元の住田鶏の味付け鶏ハラミが人気で販売もしている。他、食堂では鶏ハラミラーメンが楽しめる。鶏のハラミは1羽から少ししか取れない希少な部位の為、幻の鶏肉と呼ばれている。そのほかには住田町のブランド豚あらずポークの商品も人気メニューとなっている。また、住田町の野菜を使用して作られた三ツ星ベジソースは有名なシェフが監修した逸品でお土産としても人気がある。</p> <p>「道の駅」のある住田町では、おしろいなどを顔に塗り独特の衣装をした人たちが缶を打ち鳴らしながら練り歩き火の用心を呼びかける「水しぎ」という行事がある。住田町の世田米地区で毎年1月24日に行われている催しで、宿場町だった江戸時代、火事に気づいた人が鍋や釜を打ち鳴らして住民に知らせ大火を防いだという言い伝えを再現したもの。火事を教えてくれた人を思い思いにイメージしておしろいを顔に塗ったり古着を着たりして仮装し、住宅や学校を含むおよそ5kmのコースを、木の棒で缶を打ち鳴らしながら、「見っさいな」という独特のかけ声をあげ、無病息災や建物の安全を願う数え歌を歌って練り歩くものである。</p>
岩手-6	いわいずみ	わくわくハウス	岩泉町	国道455号	<p>1994年第5回登録の「道の駅」。</p> <p>岩泉町にある龍泉洞の近くに道の駅・いわいずみはある。秋芳洞(山口県)・龍河洞(高知県)と並ぶ日本の三大鍾乳洞である龍泉洞は国の天然記念物にも指定されており、環境庁選定の名水百選にも選ばれている。そのミネラル豊かな水を使った商品販売しており、水やお茶「じっ茶ばっ茶」、缶コーヒー番付で横綱の栄誉に輝く「龍泉洞珈琲」などの飲料や化粧品が人気だ。</p> <p>乳製品も人気で、モチモチとした食感の岩泉ヨーグルトは全国でも人気だ。2020年にはその牛乳を使ったイタリアンジェラートのお店「ViTO×IWAIZUMI:ビトクロスワイズミ」をオープンさせた。東北では初出店のお店だったことから長い時には4時間待ちという大変な人気となった。</p> <p>また岩泉町では畑で栽培する畑ワサビの生産が日本一で、きれいな水と高原の特徴を活かして、ワサビの栽培も盛んでその味わいは辛味だけでなく甘みも感じられる隠れた一品といえる。もう一つのおススメはいわいずみ短角牛だ。北海道・北東北で飼育されている短角牛は約1万頭で、和牛全体の1%にも満たない希少な肉用種であり、半数以上が岩手県で飼われている。いわいずみ短角牛のルーツは、藩政時代に南部藩(今の岩手県北部～青森県東部)で飼われていた「南部牛」にあり、三陸沿岸の海産物や塩などを内陸に箱ひな牛であった。1871年、アメリカからショートホーン種(短角種)が導入されると南部牛との交配が行われるようになり、生まれたのが「いわいずみ短角牛」である。寒さに強く、放牧に適した性質を持つため、脂肪分が少ない赤身の肉でタンパク質が豊富な健康志向のお肉として人気を集めている。</p>
岩手-7	のだ	観光物産館ばあがる	野田村	国道45号	<p>1994年第5回登録の道の駅・のだには、観光物産館ばあがる店内に牛の置物が寝そべっており撫でることができる。その歴史は古く明治時代に遡り、道で倒れた塩を運ぶ牛を祀ったもので「撫でべこ」と呼ばれ縁起物なのだ。</p> <p>三陸沿岸の野田村では昔から製塩が盛んで塩は他の物と交換できる貴重な商品だった。いったんは途絶えた製塩だが、地元の特産品を作る目的で再度商品化される。のちに東日本大震災の影響で製造施設が流出するも、再度新しい窯を建設し今日に至る。「薪窯直煮製法ののだ塩」として完全手作りのミネラル豊富なまろやかな塩は大変人気がある。</p> <p>レストランばあがるではのだ塩を使った野田塩ラーメンが人気メニューだ。細いちぢれ麺が塩味のスープにびったりで味わい深い。</p> <p>また、のだ塩に並ぶ特産品にヤマブドウがある。野田村は有数の良質なヤマブドウ産地であり2018年には生産量日本一となっている。酸味が特徴のヤマブドウは通常の食用ブドウに比べ栄養価に優れ古くから滋養強壮、貧血予防、疲労回復などに良いとされ、特に産前産後の女性に栄養補助食品として珍重されてきた。小粒なうえ皮が厚く種が多いため可食部が少なくそこから絞られる果汁はとても希少。自生のヤマブドウが糖度12度ほどなのに対して野田村で栽培しているヤマブドウの糖度は高いもので20度にもなる。観光物産館ばあがるではこのヤマブドウを材料としたジュース、ピューレ、ワインなどの商品を購入することが出来る。</p> <p>観光物産館ばあがるには村の人気キャラクター「のんちゃん」の商品が販売されている。安家川でとれるサケの稚魚がモデルで黄色く愛らしい。</p> <p>産直ばあがるでは地元のお母さんたちの手作りのおにぎりやお惣菜が充実しており、んにく味噌味の「豆腐田楽」やお餅にくるみ味噌を塗って焼いた「串餅」も評判だ。また、しだみ団子には、しだみ＝どんぐり餡を入れた山の豊かさを味わえる商品もある。山と海の幸が両方楽しめる「道の駅」だ。</p> <p>敷地内には三陸鉄道陸中野田駅もあり、車だけでなく鉄道でもアクセスできる数少ない駅で、野田村産の天然塩・のだ塩と、野田村産の食用菊の隠し味の「のだ塩ソフトクリーム」はここでしか食べられない。</p>

県-番号	道の駅名	愛称	市町村	面する道路	内容
岩手-8	たろう		宮古市	国道45号	1995年第8回登録の道の駅・たろうは震災後に宮古市北部田老地区に移転した「道の駅」で、2016年には重点「道の駅」にも登録され、田老地区の再生・創生に向けた住民活動の交流・連携、三陸ジオパークのゲートウェイとして位置付けられている。三陸鉄道田老駅に観光案内所として併設されていた施設が東日本大震災による津波で全壊したことから、道の駅・たろうの移転整備に併せて、移転復旧した。「たろう潮里ステーション」では、観光案内所としての機能の他にも、田老地区の防災ガイド「学ぶ防災」の受付、津波・防災に係る映像の上映、被災前の田老地区の街並模型の展示など、田老地区の震災・防災学習の拠点になっている。 8店舗の様々な施設があり、観光客から地元の人まで楽しめる。産直施設の「とれたろう」では三陸の海の幸であるウニやワカメ、山の幸が並んでいる。おススメは「真崎焼き」で、見た目はたこ焼きのようだが中の具が「タコ」ではなく、田老町漁協のブランドワカメ「真崎わかめ」の中芯（いわゆる茎）を一口サイズにカットしたものが入っている。口に入れた瞬間は、タコと同様の歯ごたえがあり、さらにタコよりも歯切れが良いため、子どもから歯の弱いお年寄りまで幅広く楽しめる。第6回みなとオアシスSea級グルメ全国大会in宮古で優勝の一品。ほん酢味とソース味が人気だ。善助屋食堂では、珍しいどんこからあげ丼がある。どんこはエソイソイアインメのことで、白身の淡白な魚をフリッター風の唐揚げにして衣はかりっと、中はふわふわとした食感が特徴だ。青じそ風味のたれが食欲をそそる。また、ドッグランもあり、愛犬家にとっても人気の「道の駅」だ。
岩手-9	たのはた	思惟の風	田野畑村	国道45号	1996年第10回登録で、2021年に移転リニューアルオープンした「道の駅」。 天井が高く、木材を利用した木のぬくもりを感じるデザインだ。キャンピングカー専用駐車場もあり、駐車場も広く、高台にあるため眺めも良い。 ファストフードで食べられる生乳ソフトクリームは、村の名産の乳製品を使用していて濃厚と評判。食堂のおすすめは田野畑市場でとれたヒラメを漬けた「思惟丼」や、特産のワカメを使った「ワカメたっぷりミルク麺」が人気。敷地内には古民家を移築、改修した宿泊施設「思惟創館」もある。そのそばにはやぎが飼育されており4匹の親子のやぎがかわいい姿を見せる。 田野畑村の特産品として、クロモジという高級つまようじが作られる木がある。そこから、和製ハーブといわれる葉を使ったクラフトコーラやストレートティーが人気がある。地元産のハチミツと合わせたクロモジシロップはパンケーキやヨーグルト・アイスクリームなどと合わせて楽しみたい一品。 愛称にもなっている思惟の風の「思惟」とは、元々仏教用語で、深く物事を考えるという意味がある。1960年に早稲田大学商学部助教授の小田泰生先生がゼミ生13人を連れて、農村体験のために初めて岩手県田野畑村を訪れたことから始まる。翌年の山火事による森林の焼失、続く復興と自然教育のために植林事業に学生を参加させた。早稲田大学は第一次早大紛争がはじまったところで、そこに人間教育の欠如を読み取り、自然教育の場を作ることを決め、田野畑村の自然の中で学生に「思惟」してほしいという創立者の小田先生の願いが込められたものである。
岩手-10	みずさわ	川と緑の花街道	奥州市	国道343号	1996年第10回登録の「道の駅」で、国道343号沿いの北上川を横断する藤橋河畔にある「道の駅」。整備された北上川の土手に下りることが出来、散策や釣り、バーベキュー（要予約）、水上バイクなども楽しめる。 大リーグ大谷翔平選手の出身地とあって、顔はめパネルの看板が設置されていたり、応援グッズなどの展示もある。 2Fにある食堂は大変景色も良く、北上川を眺めながら食事をとることが出来る。メニューも豊富で観光客だけでなく地元のファンも多いが、ご当地物としてすいとんが3種類ほどあるのが珍しい。野菜入り、奥州牛肉入り、カレー味とあってなかなかの人気だ。 また「道の駅」のおススメは、看板にもある「ごまソフトクリーム」。口当たり滑らかなソフトクリームは評判だ。 「道の駅」から車で15分ほどのところにある「日高神社」は、810年に蘇我天皇の命により建てられ、伊達政宗が参拝したとされる記録も残る由緒ある神社。本殿は貴重な建築方法が今に残る、国の重要指定文化財となっている。4月下旬には、「日高火防祭り」が行われ、伝統のある祭りは華やかで、豪華な囃子屋台が町中を練り歩く祭である。3回の大火に遭った藩主が、江戸のいろは組にならって6町に1つずつ組をおき、水沢の町火消組を創設したことがはじまり。町印を先頭に打囃、囃子屋台が日高神社に火防祈願する、300年の歴史を持つ火防祈願の祭である。6町それぞれ独特の音律を持つ打ち囃子は、岩手県無形民俗文化財となっている。
岩手-11	にしね	岩手山・熔岩流の里	八幡平市	国道282号	1996年第11回登録の「道の駅」。晴れた日に駐車場から秀峰・岩手山(2,038m)が見え、四季折々の美しい景観に恵まれている。 産直品には、岩手県産のヤマブドウを使った商品や、ハチミツ、南部せんべい、そば、地ビール、地酒など幅広く取り揃えている他、道の駅・にしね限定のホウレンソウのお麩・餃子・ラーメン、炊き込みご飯の素も販売している。八幡平市産原木シタケと八幡平市ブランド豚である杜仲茶ポークを使用した「もっちり豚まん」は売店の一番人気商品。レストランのメニューは、八幡平市および岩手県で生産された食材を使用しており、特に「ほうれん草カレー」、「ほうれん草ソフトクリーム」が人気。 道の駅・にしねがある八幡平市は、2005年旧西根町・松尾村・安代町の3町村が合併し誕生した。北東北3県のほぼ中心にあり、市内に3つのインターチェンジを擁する東北自動車道や、国道282号、さらにはJR花輪線が縦貫しており、基礎的な交通基盤が整っている。 また、安比高原スキー場や温泉が人気であり、十和田国立公園である八幡平は標高1,613mの山頂を中心に多くの山々が連なり、春から夏には花々が咲き誇り、秋は紅葉に染まり、冬は樹氷原が造形を見せ、四季を通して観光客が訪れる憩いの場となっている。雪のため冬季通行止めとなっている八幡平アスビテライン・樹海ラインは、4月中旬頃に開通し、両脇に数mの「雪の回廊」が楽しみ、5月下旬から6月上旬頃に見られる「八幡平ドラゴンアイ」も必見である。

県-番号	道の駅名	愛称	市町村	面する道路	内容
岩手-12	白樺の里やまがた	ガタゴンサライ	久慈市	国道281号	<p>足跡だけが発見された、未確認生物(UMA)である「ガタゴン」の巨大なタマゴが目印となっている道の駅・白樺の里やまがたは、1998年第14回に「道の駅」に登録された。ガタゴンの足跡は、1992年に山形町(旧山形村)繁地区の豆畑から、クマでもサルでもない、縦22cm、横幅15cmで4本の指と正反対の向き1本指のある足跡が残されていたことから、類人猿型のUMAと仮定されている。足跡は日本モンキーセンターによって鑑定されたが、未だに正体はわかっていない。久慈市山形(やまがた)町の「ガタ」ととって、ガタゴンと名付けられた。</p> <p>駅の名前である「ガタゴンサライ」の「サライ」は憩いと交流の場、情報がいっぱいあった場、交通機関の待合の場とし、そこに集まり流れていく人々を一種のキャラバン隊と考え、「サライ」と言う言葉を使用し「ガタゴンサライ」と名づけた。</p> <p>郷土料理「まめぶ汁」や、まめぶ汁とおしるこを組み合わせた「まめぶるこ」を食べることができる。山形村短角牛や民芸品、木工品なども人気である。隣接する売店では、野田塩と三陸産ワカメの粉が入った「塩の道ソフトクリーム」が人気となっている。</p> <p>所在地の旧山形村合併以前の駅名は「白樺の村やまがた」であった。旧山形村は、2006年3月6日、久慈市との合併により、新久慈市となった。旧山形村の面積は、新久慈市全体の47.4%と半分近くを占めている。</p>
岩手-13	みやもり	清流とわさびの里	遠野市	国道283号	<p>1998年第14回登録された道の駅・みやもりは、宮守川橋梁(通称めがね橋)の傍にあり、フオスポットとしても人気の「道の駅」。めがね橋の全長は107.3m、高さ17.8mで、20m間隔で均等にコンクリートの5連アーチが並び、宮沢賢治の「銀河鉄道の夜」のモチーフとなったと言われている。当時の建設技術力が高く評価され、2002年に「土木遺産」、2009年には「近代産業遺産」に認定された。その後は観光人気も高まり、2009年「恋人の聖地」に選定。1991年にライトアップが始まったこと、2020年に「日本夜景遺産」に認定された。また、JR釜石線をSLが運行した日は、県内外から沢山の人が訪れた。</p> <p>宮守地区は「わさびの里」として知られており、1915年頃からワサビ栽培が始まったと言われている。一年を通して低温を保ち続ける湧き水に育まれ、時間をかけてじっくりと旨味を凝縮し、風味が生みだされる。また、わさび漬などの加工品も生産され、粕漬以外にも、ワサビの風味が効いた様々な商品が開発されている。達磨部川の清冽な湧水を利用して栽培しているワサビは、色も香りも辛味のバランスも絶品である。「道の駅」内にある「めがねばし直売所」では、東北一の生産量といわれるワサビが購入できる。</p> <p>隣接するレストランではワサビを使用した「わさびソフト」、「めがねばしラーメン」などオリジナルメニューが堪能できる。めがねばしラーメンは、めがね橋をモチーフにした激辛ラーメンである。</p>
岩手-14	紫波	フルーツの里しわ	紫波町	国道396号	<p>紫波町の代表的な産地直売所のある道の駅・紫波は、1998年第14回登録の「道の駅」である。</p> <p>紫波町は、岩手県のほぼ中央に位置し、都市と農村が調和した田園都市。北から南に北上川が流れ、東には北上高地、西に奥羽山脈につながる丘陵地がある。フルーツの里と呼ばれ、県内有数の果樹生産地帯である。特にブドウの生産量は岩手県内一を誇っている。</p> <p>「道の駅」内にある、岩手県で2番目にできた産直「産直センターあかさわ」には、紫波町で生産されたブドウ、リンゴ、イチゴ、サクランボ、モモ、ラ・フランスなど、季節のフルーツをはじめ、野菜や山菜、100%ジュースなど加工品などが豊富。</p> <p>交流館には、紫波の地酒や陶器、民芸品が取り揃えてあるショップがあり、自園自醸ワイン紫波ワイナリー直営のため、常時ワインの無料試飲ができる。レストラン果里亭は、岩手産小麦「もち姫」を使ったひつつみ定食や、数量限定でバターソースが美味しい早池峰ポーク定食など、多彩なメニューで好評を得ている。「道の駅」を中心とした国道396号は「紫波フルーツロード」とも言われ、産直やレストランが集まり、「ぶどうまつり」や「りんごまつり」が開催され、多くのファンが集まる。</p> <p>紫波町は、縄文時代から先住民が集落をつくり生活を営んでいたが、800年代に坂上田村麻呂を中心とする都からの軍隊によって攻められ、斯波郡(紫波郡)として治められるようになったところから始まる。その後、平泉の藤原氏にゆかりのある樋爪氏が住み、この地を治めた。鎌倉時代には足利氏が紫波を治め、後に斯波氏と改め高水寺城を築城、1589年に斯波氏は滅ぼされ、明治初めまで南部氏が支配した。江戸時代に八戸領となり、近江商人が酒造りを始め、その当時の最高技術を持つ杜氏が大阪から招き、南部杜氏の源流となる志和近江屋を発足させた。その後、全国の酒造量が急激に増大し、醸造を委託されていた引酒屋といわれる農家が、やがてその高度な技術を買われ山台などに招かれ「南部杜氏」集団の誕生につながった町である。</p>
岩手-15	はやちね	神楽とワインの里	花巻市	県道25号	<p>岩手県道25号紫波江繋線にある、早池峰ダムの湖畔に位置している「道の駅」。1998年第14回登録の「道の駅」で、ブドウのオブジェが目印である。</p> <p>姉妹都市であるオーストリア「ベルンドルフ市」との交流記録を展示したコーナーや、大迫山村文化交流館、公園、特産品の販売コーナーなどがある。姉妹都市の名にちなみ「道の駅」一帯は「ベルンドルフ・ブラッツ」と呼ばれている。</p> <p>売店では県内産のブドウを使用した特産品のエーデルワインやワインゼリーなどを販売している。エーデルワインは、町内産のブドウ(リースリング・リオン種、ツヴァイゲルトレーバ種など)を用いてワインを生産している。大迫町は県内でも有数なブドウとワインの生産地であり、年間850mmという降水量、朝夕の寒暖差。そして、石灰質の土壌という独特の気候風土がブドウ生産の地に合うことから、ブドウ栽培が始まった。</p> <p>また、道の駅・はやちねの愛称「神楽とワイン」とあるように、大迫町は山岳信仰の霊場でもあり、1976年に国の重要無形民俗文化財第1号に指定された「早池峰神楽」が舞い継がれている。2009年には、国連教育科学文化機関(ユネスコ)の「無形文化遺産代表一覧表」に記載され、人類共通の遺産として世界に認められた。</p>

県-番号	道の駅名	愛称	市町村	面する道路	内容
岩手-16	やまだ	おいすた	山田町	国道45号	<p>2023年7月に、三陸沿岸道路山田ICのたもとに移転オープンした「道の駅」。愛称の「おいすた」には、町の特産品であるカキ(オイスター)と「おいでよ」の意味が込められ、特徴的な建屋は山田町のシンボルである大島(オランダ島)・小島をイメージしている。新鮮な海産物や農産物が目白押しの産直「オイストア」、地元で水揚げされた魚介類を中心に握り寿司などを提供するレストラン「うみっぶく」のほか、クレープやフritterを提供する店舗もある。中でも「おいすたラーメン」は、特産品である山田のカキがのっており、鳥とにぼし出汁が効いたスープが人気。</p> <p>他にも、広い敷地にふわふわドームなどの遊具で家族そろって楽しむことができる「かきくけ公園」、観光案内所もあり、町内の情報発信を担う観光物産施設となっている。山田町は人口約14,000人、豊かな漁業資源に恵まれており、波が静かな山田湾と船越湾は好漁場・漁港となっている。カキやホタテ、ワカメの養殖、イカ、サケなどを収穫する水産業が盛んである。山田湾に広がる養殖筏の風景は山田町のシンボルとなっている。1643年、オランダ船「フレスケンス号」が食糧と水を補給する為に碇を下した事から名づけられた「オランダ島」は、周囲約900m、東北唯一の無人島の海水浴場で、予約制の巡回船かマリントーリズムで渡ることができる。山田町観光協会を中心に、漁業体験、海岸美探索、シーカヤック、裂き織づくり体験教室、街歩きや震災ガイドなど様々な観光体験プログラムが提供されており、陸中海岸を満喫することができる。</p>
岩手-17	遠野風の丘	永遠の日本のふるさと	遠野市	国道283号	<p>道の駅・遠野風の丘は1999年第15回に登録され、2021年4月3日にリニューアルオープンした。遠野市は国内屈指のホップ産地であることから、「道の駅」では地ビール飲み比べができる。リニューアルしたフードホールでは、遠野ジンギスカンや五右衛門ラーメンなど遠野のソウルフードが食べられる他、名物「バケツジンギスカン」もテラスで楽しめる。また、大船渡漁港で水揚げされた鮮度抜群の魚介類の焼きたても堪能できる。古くから伝わる昔ながらの「どぶろく」もおすすめ。</p> <p>また、遠野市は説話集『遠野物語』の舞台でもあり、「永遠の日本のふるさと」を愛称として、古民家風の古き良き日本の趣が感じられる空間となっている。遠野物語は1910年、遠野市出身である民話収集の先駆者・佐々木喜善が語った遠野の不思議な現象を、柳田國男が聞き書きしてまとめたもの。遠野は三陸沿岸と旧奥州街道のちょうど中間にあたり、かつては沿岸部や街道へ行くための中継地かつ交通の要所として栄えた場所だったため、人の交流が盛んな遠野に噂話や物語が多く集まったと言われている。遠野物語の中にはカッパ伝説があり、お土産などにもカッパアイテムが多数ある。</p> <p>遠野市はカッパ出没スポットがあちこちにあり、「道の駅」ではカッパに遭遇した際に捕獲できる「カッパ捕獲許可証」も販売されている。「道の駅」から10分ほど車を走らせたところにあるカッパ出没スポット「カッパ淵」は、キュウリを餌にカッパ釣り体験ができる。カッパを捕獲し、一緒に遠野市観光協会に来ると、1,000万円の謝礼がもらえるという。</p>
岩手-18	さんりく	三陸パーク	大船渡市	国道45号	<p>2000年・第16回登録の道の駅・さんりくは、世界ブランドの三陸町産アワビやウニ、イクラ、ホヤ、特産品であるホタテ、生産量日本一のワカメなど市内で漁獲された魚介類を販売している。店内には大型水槽が完備され、生きたままの旬の魚介類を購入することができる。食事処「浜ご」では、地元で採れた海産物を使用した料理を提供している。</p> <p>ファストフード販売店「漁火」で販売している柿ソフトクリームも名物の一つ。日本で初の柿ソフトクリームを食べることができる。ソフトクリームに使用されているカキは、三陸特産の「こえた柿」。糖度が高いためとても甘く、種がないのが特徴である。その昔、気仙地域を訪れた弘法大師に土地の人がカキを恵んでくれ、そのことに感謝した大師がこの地のカキを種なしにしてくれたという逸話がある。そしてその苗木を気仙以外の地域で栽培しても種のあるカキになってしまうそう。ソフトクリームひとつにつきこえた柿が約1つ分が使われている。</p> <p>道の駅・さんりくがある大船渡市の沖合は、ノルウェー沖、カナダ・ニューファンドランド島沖のグランドバングとともに「世界三大漁場」ともいわれる三陸沖となっており、栄養分に富んだ海流による大量のプランクトンを求める小魚を狙う、サンマ、カツオ、サバなどが集まる世界的にも希少な漁場で、大船渡港は岩手県内唯一の重点港湾に指定されている。</p>
岩手-19	錦秋湖	オアシスR107	西和賀町	国道107号	<p>奥羽山脈の山心ところ、湯田ダム湖・錦秋湖畔に建つ「道の駅」。物産館には地物の山菜・キノコが並ぶ。特に西和賀町特産の「西わらび」は、とろっとした食感、独特のねばり、アクやスジが極めて少ないことから熱烈なファンが大勢いる。西わらびを使ったわらび餅も好評。季節によって具材が変わる湯田ダムカレーやビビンバ丼が評判。「道の駅」でも購入できる西和賀町のご当地おやつは「ビスケットの天ぷら」。食糧が不足していたその昔、希少なビスケットに米粉の衣でポリウムをくわえて食べたのがはじまりとされている。ビスケットは市販されている「カーさんケツ」、天ぷらの衣はもち米粉ベースが主流。作る人によって天ぷらの衣の配合が違うため、各々の家の味を食べ比べるといふ楽しみもある。</p> <p>また、1975年からは学校給食牛乳として子どもたちに飲まれている牛乳「湯田牛乳」は品質にこだわった地域の牛乳としてすっきりとした後味の飲みやすい牛乳として人気。</p> <p>西和賀町は、岩手県の最西端にあり、岩手県北上市と秋田県横手市の間に位置し、南北には県道1号が、東西には国道107号と秋田自動車道、JR北上線が通り、岩手県と秋田県を繋ぐ交通の要である。人口は約5,000人、豊富な温泉資源を活かした観光と、高原性の気候を活かした花卉栽培と稲作を組み合わせた農業が中心。湯田温泉峡のシンボルにもなっているJR北上線「ほつとゆた駅」は、全国でも例を見ない温泉付きの駅舎で、大浴場には信号機があり、青・黄・赤の色で列車が近づいたことを知らせてくれるため、列車の待ち時間や途中下車して温泉に浸かるなどほつとした時間を楽しめる。他にも数多くの温泉があり、江戸時代から続く温泉の町でもある。</p>

県-番号	道の駅名	愛称	市町村	面する道路	内容
岩手-20	くずまき高原	北緯40度ミルクとワインの里	葛巻町	国道281号	<p>2000年第16回登録の「道の駅」。国道281号沿いの高原にある憩いのスポット。産直ハウスでは、町内で生産される新鮮で安全な野菜や山の幸を中心に、葛巻町産の低温殺菌・ノンホモジナイズ牛乳やヨーグルト、バターやチーズなどの乳製品、ヤマブドウを原料にした各種くずまきワイン、クラフト製品、銘菓などが並ぶ。くずまきワインは、1979年、当時の高橋吟太郎町長が、比較的寒さにも強く、町の周辺にも自生していたため、ヤマブドウを使ったワインを町の新しい産業にして、地域の活性化に結び付けられないかと考えたことが始まりである。</p> <p>葛巻町は、岩手県東北部に位置、北緯40度線上にあり、標高は400m。面積の85%が森林となっている。盛岡市、久慈市、岩手町などと隣接しており、国道281号・国道340号がそれぞれ東西南北に伸びている。人口は約5,500人、北上高地のまっただ中に位置し、標高1,000m級の山々に囲まれた高原風土の漂う酪農と林業の町である。江戸時代には南部藩に属しており、後に分藩した八戸藩に属することとなった。また野田から盛岡へ塩を運ぶ「塩の道」の街道となっており、宿場町として栄えた面影を町中で感じることができる。</p> <p>現在は町村合併の後に葛巻、江刈、田部の3つの地域で成り立つ町となっている。また1892年の乳牛導入以来、先人のたゆまぬ努力によって、現在では牛の頭数・牛乳の生産量ともに東北一の生産量となっている。</p>
岩手-21	石神の丘	北緯40度岩手町	岩手町	国道4号	<p>新鮮な野菜と地元の特産品を使った地産地消メニューや加工品が豊富。「いわて地産地消二つ星レストラン」に認定されたレストラン石神の丘では、地元の食材を使ったオリジナル料理が人気。特に特産春みどりキャバツを使った「春みどり塩ラーメン」や、「やまと豚」「岩手めんこい黒牛」などのお肉系料理はどれも人気。</p> <p>「春みどりキャバツ」は、岩手県岩手郡岩手町のブランドキャバツで、初夏～夏にかけて収穫され、肉が柔らかく甘みがあり、巻きが緩やかな点が特徴で、炒めることでさらに甘みが増す。「春みどりソフトクリーム」は、春みどりのピューレとバニラクリームがミックス。キャバツの粒々があり、バニラの甘みとキャバツの甘みだけが程よく伝わるソフトクリームで人気。</p> <p>併設する「石神の丘美術館」は、広大な屋外エリアの「花とアートの森」が特徴的。一周およそ20～60分(1km～1.5km)。岩手町で産出した石を使って制作された作品や、デザイン遊具などが楽しめる。特に初夏のロックガーデン、6月下旬から7月上旬にかけて見頃を迎えるラベンダー、夏に実るブルーベリーや秋の紅葉時期がおすす。雄大な岩手山、稜線の美しい姫神山を望むこともでき、ピクニックを楽しみながら自然と芸術を気軽に楽しめる。</p> <p>全国の観光地域の中からプロポーズにふさわしいロマンティックなスポットとして認定される「恋人の聖地」には、2008年に岩手県で初めて選定されている。アートゲムの企画ギャラリーでは、さまざまな企画展、コレクション展などを開催、ミュージアムショップでは、石神の丘オリジナルグッズや所蔵作家グッズ、これまでに開催した展覧会の図録などが販売されている。</p> <p>岩手町は北緯40度に位置し、「道の駅」の愛称にもなっている。人間が健康で文化的な生活を営む上で最も適しているといわれるこの線上には、北京、アンカラ、リスボン、マドリード、フィラデルフィア、デンバーなど、世界の大都市が位置している。</p>
岩手-22	雫石あねっこ	いで湯の里	雫石町	国道46号	<p>2001年第17回登録の「道の駅」。低張性アルカリ性高温泉の「新はしほの湯」、新鮮野菜や地元の特産品を活かしたお土産品が並び物産館、栽培から製粉・麵打ちまで全て自家製雫石産の絶品そばが食べられる「しずく庵」、身近な和風のハーブから、季節を彩るさまざまな鉢植えなどを販売する「日本ハーブ園」、徒歩2分のところにはオートキャンプ場とリラククスできる「道の駅」。</p> <p>おすすは「雫石牛サーロインステーキ丼」。雫石の豊かな自然の中でのびのびと動き回り、農家の人々のこまやかな愛情につつまれて大切に育てられた黒毛和牛で、肉質はまろやかな独特の風味とコクに適度のサシが入っており、全国和牛能力共進会ではグランドチャンピオンを獲得、その他にも数々の賞も受賞している雫石牛が豪快に頬張れる。「道の駅」の前を通る国道46号は秋田街道と呼ばれていた。盛岡城下から雫石、国見峠を越えて秋田藩領の生保内(おほない)、角館(現 仙北市)方面に至る奥羽山脈越えの街道である。秋田街道の名称が定着するのは明治に入って仙岩峠が開かれてからで、それまでは盛岡藩では「雫石街道」「秋田往来」と呼ばれ、ほかに「生保内街道」「角館街道」「盛岡街道」「南部街道」など、行き先や目的によってさまざまな呼称が用いられていた。秋田街道の特徴は奥羽山脈・国見峠の難所を越えることで、古代以来、主に戦略の道として開削され、中世を通じて軍馬の往来が盛んだったことである。近世に入り、盛岡の城下町としての整備が進むにつれ、秋田など日本海沿岸との交易が盛んになり、盛岡・秋田両藩の藩口となる橋場(岩手県雫石町)と生保内(秋田県仙北市田沢湖)に御番所が設けられ、物資や人の出入りを取り締まるようになった重要な街道のひとつであった。</p>
岩手-23	とうわ	毘沙門天と萬鉄五郎の里	花巻市	県道39号	<p>釜石自動車道東和ICを降りてすぐの、東和温泉のある「道の駅」。東和産ハチミツ、リングを使ったジュースなどを販売。ホテルフォルクローロ花巻東和も敷地内に併設、車で5分のところには、東和町出身の近代洋画家萬鉄五郎記念美術館もある。</p> <p>「道の駅」のおすすにもなっている「東和きりせんしょう」。「きりせんしょう」の名前の由来は、昔はサンショウを刻んで浸した汁で粉を練ったことから「きりさんしょう」と呼ばれ、それが転じて「きりせんしょう」となったという説があるが、昭和初期にはすでにサンショウは全く使われなくなった。岩手県中部水田地帯を中心に昔から食されており、行事食として大切にされてきた。3月3日の桃の節句で仏壇やひな壇に供えたり、農作業の合間のおやつとして食されたりするほか、結婚式で振る舞われることもある。地域や家庭により細かい作り方や味つけの仕方、形状に違いがみられるが、「米粉を蒸すこと」「クルミとゴマを入れること」「醤油、砂糖などで味をつけること」は共通している。形状は、箸で模様をつけた小判形や木の葉形、また木型を使って花や舟の形にしたものなどいくつかのバリエーションがある。素朴な味が特徴の郷土菓子である。</p> <p>「道の駅」から車で10分ほど行くと全国泣き相撲大会で有名な成島三熊野神社には、国指定重要文化財となっている「兜蹴毘沙門天立像」と「毘沙門堂」がある。「兜蹴毘沙門天立像」は、高さ4.73mで樺一本彫成仏として日本一。平安中期、朝廷から派遣されたこの地を平定した坂上田村麻呂により完成されたものと伝えられている。「全国泣き相撲大会」は、古くから三熊野神社の特殊神事で、豊作を祈る大人の相撲から江戸時代には数え2歳の幼児による泣き相撲に代わり、現在では幼児の成長と豊作を祈る行事として続いている。1993年には花巻市無形民俗文化財に指定された。</p>

県-番号	道の駅名	愛称	市町村	面する道路	内容
岩手-24	敵美溪	もちと湯の郷	一関市	国道342号	<p>国の名勝天然記念物・敵美溪や一関温泉郷へ続く国道342号沿いにある、都市農村交流館と博物館からなる「道の駅」。採れたての新鮮農産物から工芸品まで豊富に揃う産直施設のほか、一関のもち食文化を紹介する展示室、本場のもち料理が楽しめるもち食レストランなどがあり、8種類の味が入った「和風もちセット」は一番人気。また、同工エリア内の一関市博物館では一関の歴史や先人の足跡を学ぶことができる。</p> <p>もち食文化は、仙台藩の命で、農民は毎月1日と15日はもちをつき、神様に供えることが決められていた。これがきっかけとなり、季節の節目、祝儀・不祝儀など年間60日以上もちを食べる習慣が庶民に広まった。</p> <p>伊達藩の武家の宴会などで食べられていたものは、「もち本膳」と呼ばれる宴会料理である。本膳料理は室町時代の武家の礼法が発祥とされる、祝いの席などの儀礼食で、仙台藩ではこの形式に則りながらも独自に、一の膳(本膳)を餅だけで整える「もち本膳」を考案した。もち本膳には、「あんこ」と汁に入れた「雑煮」、「すんだ」、「じゅうね」、ヌメエビなどの食材をもちに絡めて食べる「料理もち」などが並ぶ。現在伝わるもち料理は、約300種類。エビやネギ、シイタケなどを使った惣菜もちもある。この食文化は、ユネスコ無形文化遺産に登録された「和食」のひとつにも認定されている。</p> <p>栗駒山から一関市内へと流れる磐井川の浸食により形成された国の名勝、天然記念物・敵美溪は、エメラルドグリーンに水流に奇岩、巨岩、窟穴、深淵、滝など、約2kmにわたる人々を魅了する景観が続く。季節とともに変化する敵美溪の美しさに、仙台藩主・伊達政宗公は「松島と敵美が我が領土の二大景勝地なり」と賛美の言葉を残したと伝わっており、年間100万人以上が足を運び、一関エリアを代表する来訪者数No.1の人気スポットでもある。</p>
岩手-25	おりつめ	オドデ館	九戸村	県道22号	<p>道の駅・おりつめは、八戸自動車道九戸ICから久慈市に至る主要地方道沿線にあり、折爪岳を眺望できる休憩スポットとして人気がある。2001年第17回登録の「道の駅」。一番賑わう産直施設オドデ館は、アマチャや「山ぶんどろジュース」など九戸村の特産品や、木工品、お総菜やお弁当も好評。特に若手切炭や薪などはキャンパーに人気がある。また、九戸村伝統工芸品の南部帯も店頭で手に取って見ることができる。</p> <p>隣接するレストランでは、鶏肉県内随一の産地だけに鶏出汁のきいた郷土料理「ひつみ定食」や、唐揚げ定食など鶏料理も人気。</p> <p>九戸村の特産品は、生産量日本一のアマチャ。ヨーロッパ諸国まで輸出されている。アマチャはユキノシタ科に属するガクアジサイによく似た80cmほどの低木樹で、九戸村の自然豊かな環境を活かして、無添加、無農薬で化学肥料を使用しない方法で30年以上もアマチャ栽培に取り組み出荷している。</p> <p>「道の駅」の愛称にもなっている「オドデ」は、上半身がフクロウで下半身が人間の様な姿をした、九戸村の昔話に出てくる怪鳥である。人間の言葉を話し、運勢や天気、病気を言い当てるなど不思議な力を持ち、「ドデン ドデン」と鳴くことから、怪鳥は「オドデ様」と呼ばれ、村民に語り継がれている。</p> <p>近隣の折爪岳は、岩手県北の二戸市・軽米町・九戸村の3つの市町村にまたがり、折爪・馬仙峡県立自然公園に指定されている標高852mの山で、トレッキングに適した低山である。車でも行ける頂上近くの展望台から、岩手山、青森県の岩木山、八甲田連峰や八戸沖まで望める眺めが自慢。九戸側の山頂に向かう林道沿いに、オドデ様の滝、江刺家(えさしか)大滝、姫待ち、織姫の、清水(おすず)の滝の「折爪五滝」がある。豊富な湧水によって、7月上旬から中旬には、ヒメボタルが100万匹飛び交う光景が見られる。</p>
岩手-26	かわさき	川の灯	一関市	国道284号	<p>2002年第18回登録の「道の駅」。岩手県の南の玄関口、東北自動車道一関ICから国道342号線、4号線、国道284号線で気仙沼方面に25km、車で約30分の所にある。旧川崎町はもともと、千蔵川、砂鉄川、大河北上川と共に川で栄えた地域で、度々洪水に悩まされた地域だが、そのため、河川敷は肥沃な土地に恵まれて立派な野菜が栽培されている。特に根菜類のゴボウ、ナガイモ、サトイモは、一関青果市場でも高値で取引される自慢の野菜。加工品関連は、県南随一の品揃えとボリュームを誇り、「昔懐かしい、お袋の手作りの味」をキーワードに、昭和20年代頃に食べた食材の再現に取り組んでいる。</p> <p>一関地方に古くから伝わる郷土料理「かにぼと」が人気。北上川に生息するモズガニで出汁を取った郷土料理で、透き通っているのにコクがある濃厚なカニのスープにダイコン、ニンジン、ネギなどの野菜とぼとが入っている。他にも在来原型種のサトイモ「ツルクいものこ」、アビオスの花を乾燥しお茶にした「ほど芋茶」、「ほどいもかりんとう」などが、こだわりの品。</p> <p>「道の駅」おすずめの郷土菓子「大橋がんづき」は、スポンジケーキのようなふわふわな食感が特徴。「がんづき」とは、農作業の合間のおやつとして食べられていたもので、小麦粉や卵などの生地を一気に蒸して、しっとり、もちもちとした食感に仕上げる、いわば「蒸しパン」のようなもの。しょう油や味噌を加えることが多く、懐かしい味の菓子である。生地をふっくらとさせるために、重曹のほかに酢も加えている。トッピングはクルミや黒ゴマがポピュラーで、まるく蒸された「がんづき」の上にはちらばる黒ゴマを、月と雁の姿になぞらえ「雁月(がんづき)」と呼ぶようになったという風雅な名の由来がある。</p> <p>「道の駅」から車で5分ほど行ったところにある、前九年ノ役の古戦場「河崎の柵」跡は、1056年、前九年の役で、安倍貞任が朝廷軍源頼義を迎え撃つため、兵を構えたのが「河崎の柵」で2003年に発掘調査され、敵の進入を遮断するための堀跡が発見された。また、川崎町は、江戸時代末期から明治時代にかけては、「川の道」と呼ばれた北上川での船運事業で大いに栄えたところでもある。</p>

県-番号	道の駅名	愛称	市町村	面する道路	内容
岩手-27	やまびこ館	閉伊の郷かわい	宮古市	国道106号	<p>国道106号の宮古市と盛岡市の中間に位置し、ドライブの休憩スポットとしてにぎわう、2004年第20回登録の「道の駅」。宮古市川井地区の特産品である黒平豆を使ったそばやソフトクリーム、シソを使った紫蘇ドリンクや紫蘇ふりかけなどの特産品がたぐささん。ナタで豪快に切り落とす様から、「がっくら漬」といわれる昔ながらの麹漬や、旧川井村と交流があった韓国のつくりかたをもとに本場の味に仕上げた「友情キムチ」もある。</p> <p>レストランではオリジナルラーメン辛さ5段階の旨辛味噌スープ「ドラゴン麺」が人気。芝生には2021年4月にオープンしたドラゴン広場があり、子育て世代に人気の「道の駅」となっている。併設のパン工房では毎日焼きたてパンを販売、コーヒーとともにその場で食べることも可能。</p> <p>敷地内にある無料で見学できる「薬師塗漆工芸館」では、漆芸家全龍福氏によって創作された「薬師塗漆芸術作品」が展示され、漆塗りのピアノを弾くことができるほか、「螺鈿技法」を使ってアクセサリーやストラップ、箸などを作る体験もできる。螺鈿とは、1300年ほど前に中国大陸から伝わった技法で正倉院の宝物にも見ることができ。宝石のような貝の輝きと漆の色の組み合わせの美しさが特徴で、漆器などに施される装飾のひとつ。ヤコウガイ・オウムガイなどの貝殻の真珠色に光る部分を磨いて薄片にし、いろいろな形に切って漆器や木の表面にはめ込んだり貼りつけて装飾する工芸技法のことである。「螺」は螺旋状の貝殻を指し、「鈿」は貝や金属などを使う飾りを指す。</p>
岩手-28	みやこ	シートのピアなあと	宮古市	国道45号	<p>2003年第21回登録の三陸復興国立公園名勝・浄土ヶ浜に近い本州最東端の「道の駅」。愛称にある「なあと」は、宮古地域で「どうですか?」「いかがですか?」という意味を持つ方言。地域のお土産品をはじめ、「道の駅」向かいの魚市場に水揚げされた魚介類とその料理、加工品が並ぶ。レストランでは、三陸の海の幸がたぐささんのオリジナル海鮮丼「なあ丼」が、季節の魚介類が盛りだくさんで人気。ほかにも「宮古の塩サイダー」「海のソフト」も注目。</p> <p>岩手県沿岸では獲れたてのウニを牛乳瓶に詰めて保存する。獲れたてのウニを、滅菌処理を行った海水と一緒に牛乳瓶に入れ保存することで、地元でしか味わえない新鮮で美味しいウニを食べることができる。これにヒントを得て考案されたのが宮古名物の「瓶ドン」である。宮古の旬の食材を牛乳瓶に入れ、自身でその場でご飯にかけて食べる体験型のご当地丼は、「道の駅」でも味わうことができる。</p> <p>「遊覧船 宮古うみねこ丸」は、「道の駅」そばの出崎ふ頭に発着所があり、1階で乗船券を販売している。遊覧船は、国指定の名勝「浄土ヶ浜」をはじめとした三陸ジオパーク・ジオサイトをめぐる遊覧船で、広い展望デッキから眺める三陸の海や数々の奇岩は、見る者を圧倒する迫力満点の景色だ。また、船内ではウミネコパンを販売しており、遊覧船のデッキから海上を飛ぶウミネコへの餌付け体験も人気。浄土ヶ浜は三陸復興国立公園の岩手を代表する景勝地で、「道の駅」から指定駐車場まで車で約5分で行くことができる。白い岩肌と松の緑、海のコントラストは必見の美しさで、夏は海水浴場としても人気。</p>
岩手-29	三田貝分校		岩泉町	国道455号	<p>2007年第24回登録の、1999年に閉校となった岩泉町立門小学校三田貝分校の跡地を活用したノスタルジックな「道の駅」。岩泉町の西の玄関口で、JRバス東北・龍泉洞行き路線バスの停車場にもなっている。駅の中には分校で実際に使用していたオルガンなどが並んでいる。売店「購買部」では農畜産品や木工品なども買える他、短角牛コロッケや黒豚メンチカツ、名物の「分校まんじゅう」や「きなこあげぱん」「岩泉ヨーグルト」も人気。食堂「給食室」では実際に学校で使われた机とイスで時間割表を見ながら、アルミのお皿に牛乳がついた給食風セットが食べられる。給食室の隣には、「ピザハウス三田貝」があり、地元産生乳を使い、ピザ用に独自開発した「低水分モッツアレラチーズ」を載せたこだわりのピザを食べることもできる。</p> <p>目の前を走る国道455号は、その昔、南部牛が荷を運んだ「塩の道」小本街道である。岩泉町小本から早坂峠を越えて盛岡市へ通じ、沿岸北部と内陸を結ぶ重要な道であった。沿岸からは塩や海産物などを運び、内陸でコメ、アワ、ヒエ、マメなどの穀類や雑貨と交換されていた。特に塩はその中心であった。</p> <p>早坂高原は、「道の駅」から内陸へ車で25分程のところにある。標高916mの早坂峠を中心に広がり、短角牛がのんびり草を食む大草原は、県立自然公園に指定されており、レンゲツツジ、白樺、シナノキや高地性植物の宝庫である。春になるとカタクリの花が咲く。早坂高原の広葉樹林は世界的にも保護価値が高いと注目され、樹林内の散策路(総延長約4km)が癒しの高い「森林セラピーロード」(全国で63か所)として認定されている。</p>
岩手-30	くじ	やませ土風館	久慈市	国道281号	<p>2008年第25回登録の「道の駅」。物産館など「土の館」と観光交流センター「風の館」との複合施設「やませ土風館」は、JR久慈駅・三陸鉄道久慈駅から約700mの久慈市内中心部にある。テレビドラマで知られた「北限の海女の町」の「道の駅」でもある。</p> <p>物産館の「土の館」では久慈琥珀や地元で収穫された旬の野菜、地酒などを提供、魚介類も豊富で「あまちゃんグッズ」もある。物産店も入っているのでお土産選びにも最適。また観光交流センター「風の館」では岩手県北で最大規模で1360年代から続く「久慈秋まつり」で実際に使われている山車や神輿を展示、実際のまつりの様子を映像モニターで紹介、郷土資料も展示している。</p> <p>レストランでも提供している「久慈まめぶ汁」は、NHK連続テレビ小説「あまちゃん」で有名になった、山形町地域発祥の郷土料理である。煮干しと昆布でだしを取った醤油ベースのおつゆに、ニンジン、ゴボウ、かんぴょう、シメジ、油揚げ、焼き豆腐、そして「まめぶ」を入れて煮込んだ料理である。「まめぶ」は小麦粉を練った2~3cmくらいの団子状で、中に黒砂糖とクルミが入っている。名前の由来は、稗麩に似ていることからそれが訛ってまめぶになったという説、「まめまめしく健康で暮らせるように」という願いからという説などがある。「あまちゃん」の作中に登場し、一気に全国に広まり、2015年のB-1グランプリでは、全国第5位に入賞した。</p> <p>また、特産である久慈の琥珀は、縄文時代中期また、古墳時代初期には採掘され、古墳時代すでに奈良地方へ運ばれていたことが、遺跡出土品の科学分析で解明されている。室町時代中期頃からすでに産業化され、江戸時代には南部藩の重要な産業のひとつであり、一時は多くの琥珀細工師が当地で働いていた記録が残されている。琥珀そのものも、約9千万年前のもので、宝飾品などに使われている琥珀としては世界でも古い年代の琥珀となっている。</p>

県-番号	道の駅名	愛称	市町村	面する道路	内容
岩手-31	釜石仙人峠	アユ踊る清流と甲子柿の里	釜石市	国道283号	釜石自動車道の釜石仙人峠ICに隣接する、2015年第43回登録の「道の駅」で、釜石市の西の玄関口に位置し、背後の甲子川と周りの緑を眺めながらつづける場所にある。10月中旬には特産品・甲子柿の販売、その他、釜石の海産物やお土産や昔ながらの極細縮れ麺の釜石ラーメンも味わえる。 甲子柿とは、釜石市甲子地区で行われている、渋柿を石造りの室に1週間、煙でいぶして渋を抜く製法で作られたもの。そのぶるんとして溶けていくゼリーのような食感と芳醇な甘さは、昔から秋の味覚として地域の人に親しまれてきた。消費期間が1週間程度と大変短いこと、高齢化に伴い、以前は80件あった生産農家も今では20件程に減り、生産量も減少したことから非常に貴重なものとなっていたが、急速冷凍技術により、細胞を壊さずに冷凍することで、甲子柿が持つ素材本来の旨味、香り、みずみずしさなどを長期間保つことができるようになったことから、遠方への配送も可能となった。また、甲子柿などを使用した様々な加工品も開発されている。 「道の駅」の名称にも使われている「仙人峠」は、標高887mの、遠野と釜石の市境にある緑深き峠で、新緑や紅葉の季節は特に美しく、銘水「仙人秘水」もここで生産されている。仙人峠の名前の由来は、この峠には仙人が住んでいたなど、諸説ある。急カーブ、急勾配が続く交通の難所だが、新緑と紅葉のスポットとして知られており、毎年美しい色合いを見せてくれる絶好のドライブコース。陸中大橋駅近くには、仙人峠をうたったとされる宮沢賢治の詩碑が設置されている。
岩手-32	平泉	黄金花咲く理想郷	平泉町	国道4号	2016年第46回登録、2017年4月にオープンした「道の駅」。柳之御所遺跡に隣接し、近隣には世界文化遺産に登録された「中尊寺」や「毛越寺」をはじめ、数多くの国宝や重要文化財を保有する歴史の町平泉町にある。 町内農産物の販売、岩手県内のお土産品が豊富に揃っている物産館や、地元食材を活かした豊富なメニュー、朝6時開店の朝食が評判のレストランがある。お土産に おすすめなのは、平泉町産「ひとめぼれ」100%使用した、「どぶろく一音(いっとな)」。平泉の元気なおかあちゃんたち5人で作ったどぶろくで、まろやかなうまみや深み、甘味とコク、フルーティーな香りが魅力。 高館の麓から北上川沿いに段丘が広がる「柳之御所遺跡」は、奥州藤原氏の拠点と伝えられてきた。これまでの発掘調査により、中国産の白磁の壺、東海地方の陶製の火鉢、さまざまな木製品や大量消費された「かわらけ」、堀や堀、池や井戸など、12世紀の平泉遺跡群の中でもずば抜けた質と量の遺物、遺構が発見されたことから、平泉館(政府)に該当する可能性があるとして、1997年に国史跡に指定、2010年から史跡公園として公開されている。 車で5分ほど行くと、世界遺産「中尊寺」へ。平泉には、仏教の中でも、特に浄土思想の考え方に基ついて造られた多様な寺院・庭園及び遺跡が、一群として良好に保存されており、寺院や庭園は、海外からの影響を受けつつ日本で独自の発展を遂げたものとして評価されている。 資産は「中尊寺」「毛越寺」「観自在王院跡」「無量光院跡」「金鶏山」の5つであるが、登録資産に関連する数多くの有形・無形の文化財もまた重要であると考え再登録、2021年7月に世界遺産となった。
岩手-33	むろね	霊峰 室根山	一関市	国道284号	岩手県一関市の東に位置し、宮城県気仙沼市に隣接、霊峰室根山をシンボルとする、2017年第48回登録、2018年4月に開業した「道の駅」。内陸と沿岸をつなぐ「道の駅」として、観光情報や地元一関市の農産物を中心に三陸産の海産物や加工・特産品の販売、地元食材を使った食堂などが人気。 中でも人気は「室根からあげ」。2023年14回目となる全国785店がエントリーした「からあげグランプリ」の東日本しょうゆダレ部門で3回目の最高金賞を受賞。「室根からあげ」は、銘柄鶏「奥州いわいどり」のもも肉を使用し、しょうゆとシウワガ、タマネギの秘伝のダレに漬け込み、ほんのり甘いサクサクの衣で包んだからあげは地元住民だけでなく観光客にも人気の商品。 岩手県一関市室根町は、一関市の東の県境に位置し、宮城県気仙沼市に隣接している。かつては室根村であったが、2005年に7市町村が合併し、一関市となった。シンボルの室根山を中心に美しい田園風景が広がる、自然豊かな中山間地域である。「道の駅」の愛称にもなっている「霊峰・室根山」は、県立自然公園に指定されている標高895mの山で、山頂からは気仙沼港や金華山まで一望でき絶景が広がる。5月下旬から6月上旬までは群生するつつじが真っ赤に咲き誇り、ハングライダーやパラグライダーの愛好者による飛行も見ることが出来る。なだらかな裾野を引く姿は「小富士」とも言われ、三陸の沖合を行く漁民たちの、海上安全、大漁祈願の信仰の対象となっている。室根山の8合目の室根神社は、国指定重要無形民俗文化財の「室根神社特別大祭」が、旧暦うるう年の翌年10月に古式そのまま華々しく開催されている。
岩手-34	はなまき西南	賢治と光太郎の郷	花巻市	県道13号	県道13号(盛岡和賀線)沿いにある、2020年3月第52回登録、花巻市内4か所目の「道の駅」。花巻市西南地区の暮らしと生活を支える役割を持ちつつも、観光施設など交通アクセスに優れた立地から、地域連携の拠点としても活躍する。 また高齢者宅の見守りを兼ねた地元食材を使った配食サービス、レストランには人気の名店「味楽苑」が移転。この味楽苑での一番人気は「ささまホルモン」。岩手県花巻市で創業30余年、岩手県産豚から希少部位である豚直腸を使った上質のホルモンだ。創業当時から伝わる下処理をした味噌ホルモンは、まさにソウルフードで地元で長年愛されている。花巻温泉の名物あんぱんを24時間いつでも購入することができる、バラのイラストでラッピングされたオリジナル自動販売機1号店も設置。 近隣には高村光太郎が晩年過ごした「高村山荘」がある。高村山荘は、彫刻家・詩人である高村光太郎が晩年の7年半を過ごした小屋である。1945年に宮沢賢治との縁から東京より現在の花巻市の宮沢家へ疎開したが、宮沢家も花巻の空襲により焼失したため、旧太田村山口地区であったこの地へ地元の人々の協力を得て移住した。1952年にこの山荘を離れるまでもっぱら詩作と書に専心し、書のいくつかは同敷地内の高村光太郎記念館に展示されている。建物はわずか7.5坪の小屋だが、光太郎の没後、敬慕する地元の人々により保存されて現在に至る。 「道の駅」から車で20分ほどのところには「宮沢賢治童話村」がある。賢治の思い描いた世界を「ファンタジックホール」、「宇宙」、「天空」、「大地」、「水」の5つのゾーンで構成した体験施設「賢治の学校」や、ログハウス展示施設「賢治の教室」では賢治の童話に関する展示があり、宮沢賢治の童話をテーマに夢のある世界を体感できる施設である。「道の駅」の愛称の由来にもなった。

県-番号	道の駅名	愛称	市町村	面する道路	内容
岩手-35	青の国ふだい		普代村	村道普代駅前1号線	<p>三陸鉄道「普代駅」の駅舎に併設する、2021年3月第54回登録の「道の駅」。美しい自然景観の三陸復興国立公園黒崎園地や普代浜園地キラウミ、普代水門、鶴鳥神社など村内観光の中心拠点。また三陸鉄道への乗降も可能で三陸鉄道からの車窓も楽しめる。</p> <p>普代村の中心にあり、岩手県屈指の魚種を誇る普代の海で採れたコンブ、ワカメなど海産物が豊富であり、アンテナショップも併設している。特産の一つ「すき昆布」は、しっかりした出汁と歯ごたえで、煮てよし・炒めてよし・揚げてよしの優れもの。保存もきくのでお土産にもおすすめ。また、コンブの粉末を練りこんだこんぶソフトクリームは絶妙な味わい。塩気があり濃厚ミルクに合い、リピーターも続出している。</p> <p>普代村おすすめ絶景は、「道の駅」から車で15分ほどのところにある、黒崎園地である。東北一の高さを誇る、海拔130mの断崖に位置する白亜の灯台「陸中黒崎灯台」は、日本の灯台50選に選定されている。また、黒崎展望台から見る太平洋の大パノラマは圧巻の一言。他にも、岩手県最大の150mもの落差を誇る「アンモ浦の滝」、北緯40度00分00秒の東端ポイント「アンモ浦展望台」、「カリヨンの鐘」は、フランス語で「幸せの鐘」の意。カップルや家族で鳴らすと、海や断崖をこだまする音色が幸せと呼び込むとされ、縁結びスポットになっている。</p> <p>そして、高さ150mを超える黒崎の断崖の上にある展望台が「黒崎展望台」。久慈市までの海岸線が一望でき、雄大な太平洋の絶景が目の前に広がる。海と空が一体となって見える青色の美しさから、「青の国ふだい」と呼ばれるようになった。約1億3000万年前の火山活動によってできた黒崎の断崖は、三陸ジオパークにも指定されている。</p>
岩手-36	いわて北三陸		久慈市	国道45号	<p>三陸沿岸道路久慈北インターを降りてすぐのガソリンスタンドを併設する「道の駅」で、久慈広域4市町村(久慈市、洋野町、野田村、普代村)の食や観光などの魅力を発信している。2022年8月第57回登録、2023年4月開業の「道の駅」。</p> <p>特産品が豊富な産直施設、海・山の幸を味わえるフードコート、屋内遊具が充実したキッズコーナー、天候を気にせずイベントを開催できる「屋根付きイベント広場」といった、屋内外施設が充実している。</p> <p>「道の駅」でのおすすめメニューの一つに「北三陸海鮮丼」がある。海鮮丼の具となる「久慈育ち琥珀サーモン」は、2019年に養殖を開始、秋サケに代わって春から秋にかけて水揚げでき、生で食べられる養殖サーモンである。地元特産のヤマブドウの皮やタネの粉末を混ぜたえさを与えるため、うまみが増して色合いもよい。半年で1.5kg以上になった成魚から出荷している。</p> <p>また、国内最大の琥珀産地であり、唯一のジェット(黒玉)産地として知られる久慈市の「久慈琥珀」や、琥珀の縁で結ぶ姉妹都市のリトアニア共和国からの珍しい物産、国内最大のマリノローズ(正式名称ロードナイト)の産出地、野田村で加工されたマリノローズアクセサリーも人気である。</p> <p>洋野町、久慈市、野田村、普代村は三陸沿岸道路で結ばれた北三陸地域と呼ばれ、三陸海岸の北部に当たるこの地域の海域は日本屈指の漁場になっており、ウニやホヤ、サケ、海藻類など美味しい海産物の産地となっている。2013年にはNHK朝の連続テレビ小説「あまちゃん」の舞台として主人公が発する「じぇいじぇい」というワードとともに一躍有名になり、北三陸という呼び名とともに、北限の海女、南部もぐり、三陸鉄道、琥珀、平庭高原の白樺林や闘牛などたくさんの観光資源が注目されている。</p>